

月刊 やちまなこ

2014.4.15 発行

No. 197

4 月号

釧路湿原国立公園 塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）だより



湿原散歩

冷たい風が吹く湿原も雪解けが始まり、エゾアカガエルの鳴き声を聞くころとなった。湿原早春花のフキノトウ、フクジュソウ、ネコヤナギはポピュラーだが、もう一つヤチハンノキの雄花も風に揺れるたび、黄緑色の花粉が見えていた。

コッタロ川と湿原のほとりから

166 4月のコッタロ湿原便り

コッタロ在住・中本 アキ子(文) 中本 民三(写真)

本格的な春の装いの前に、必ず訪れる戻り寒波の厳しい朝(−9℃)など、心して戒めなければならない己の怠惰と短気に“二大罪カフカと語る余寒哉”の昨今です。残雪を斑に散りばめた大地の枯れ草を分けてフキノトウが、はたまた陽当たりの良い庭先では6本の福寿草がまるで金盃の如き花びらを広げて、しびれそうな甘露をいただいております。

ところで3月15日“雪解風吹いて丹頂産卵す”の第1コツ&タロの番は不運にも4月4日の洪水で浸ってしまった湿原の営巣地を逃れ、庭の池で13時間過ごした後、水の引いた巣に舞戻ってから、またしても死卵となった2ケをそのまま抱き続けているではありませんか。105日間抱卵の末に断念せざるを得なかった去年の悪夢を再現しそうな雰囲気ですよ。一方の第2コツ&タロは幸運にも4月6日からの営巣開始で、順調に行けばゴールデンウィーク明け頃には孵化することでしょう。

さて、時折まっ青な空を仰いでいると、吸い込まれそうにして冬鳥達の北帰行が相次ぐ中、水面に目を移せば点々と光るカエルの卵が、エオル(風の神)に踊らされて波立つ中プルプル震え乍らも、そこはかたない感傷を誘われる音楽を奏でているようでそれ等を愛でずにいられませんね。そのような風景を横切って夏鳥達も渡来し始めました。すでに一番乗りのキジバトに続いて雲雀の群がえも云われぬ涼やかな囀りを響かせる草地には、この冬中見ることの無かったエゾ鹿の母と子8頭の群がゾロゾロゾロ…。又、10日に初飛来したカワラヒワの群にも嬉しい予感!

特筆すべきは、何と云っても主役を演じた冬鳥のツグミ2羽で、庭の雪の上でのバトルからは目が離せず、熾烈な肉弾戦の数々を写真におさめましたので御覧下さい。エサのリンゴをめぐる争いは結局リンゴの置き場所を3メートル離してやることで、こちらが拍子抜けする位、たちどころに解決してしまいめでたしめでたし。この2羽も、アトリや紅ヒワと共に4月6日にはロシアへ向けて旅立ったことでしょう。



湿原の住人たち その157

キバナノアマナ

塘路湖畔では、フクジュソウ、エゾエンゴサクに次いで4月中旬からキバナノアマナが黄色い花を咲かせます。他の植物よりも早く地上に顔をだしてまわりの草や木が茂らないうちに栄養分を蓄え初夏には枯れてしまう、春植物のひとつです。草丈は15センチほどで、幅約5ミリのひ弱に見える葉と径約2センチの花が、春の不安定な天候をものともせず生長する姿に野草の逞しさを感じます。散策時は春を飾る足元の花たちにも注目してください。



春の嵐

春の大雨は、雪解けを加速させ湿原を流れる川を増水させます。湿原とほぼ同じ高さのコッタロ湿原への道路（道道1060号クチョロ原野塘路線）は、4日の雨で滞水冠水し通行止になりました。



昨年4/7、9/16、今月4日の異常気象と思える雨量が気になり、気象庁のHPで塘路の日降水量を検索してみました。（以下、観測史上1～10位の値データ引用）

2014/4/7の日降水量は106.5ミリ。1983.8～2014.4の統計期間

中、第6位。2013/4/7は101.0ミリで第7位。第1位は2013/9/16の157.0ミリでした。

右の写真は4月5日夕方の茅沼湿原です。かつて湿原が海だった頃を思わせる景色をみながら、洪水を防いでくれる湿原の偉大な機能を実感しました。



ネムネムのとうろうろう日記 Vol.48 「恋の季節」

この季節、郷土館の屋根のひさしの下はスズメのさえずりで賑やかです。駐車場に行くと、車体とタイヤの隙間から、スズメのカップルが飛び出します。郷土館の中に入れそうか、入り口から様子を伺っているスズメもいます。繁殖期のホルモンがなせる技とはいえ、日に日に大胆になっていくスズメ達の行動には驚きです。

鳥が繁殖期に入るきっかけには様々な要因がありますが、そのひとつに「日の長さ」というものがあります（1年中タマゴを産むように、ニワトリ小屋の照明時間を調節しているのは、この性質を利用しています）。春になって日が長くなるとホルモンバランスが変化し、体が勝手に恋をする状態になってしまうわけです。

実は私も春になると毎年、足元がフワフワして揺れているのを感じ、お客さんが来て受付をしようと立ち上がると胸がキュンと締め付けられ、ドキドキする日が続きます。もしやこれが繁殖期？とちょっと期待したのですが、医者に「低血圧による立ちくらみと動悸。春は血管が緩むから、血圧下がる人が多いんだよね～」と、あっさりその可能性を切り捨てられました。

辻 ねむ（標茶町郷土館学芸員）



